

専門分野

成人看護学・老年看護学

目的 成人、老年期にある対象及び家族を理解し、その人なりの健康および健康障害における看護が実践できる能力を養う。

- 目標
- (1) 成人・老年期にある対象を身体的・心理的・社会的特徴と発達段階をふまえ、総合的に理解できる。
 - (2) 成人・老年期にある対象の健康の動向と社会構造の変化、それに応じた保健医療福祉の連携に必要な看護の役割を理解できる。
 - (3) 健康障害のある対象とその家族に対し、生活環境や健康状態に応じた個別の看護が実践できる能力を身につけることができる。
 - (4) 対象のもつ健康上の問題を解決するために科学的思考を活用することができる。

科目	単位 (時間)	科目目標	主な内容
成人・老年看護概論	1 (30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年看護の意義と役割を理解できる。 2. ライフサイクルにおける成人・老年期看護の特徴から、対象が理解できる。 3. 保健医療福祉の動向と対策から看護の役割を理解できる。 4. 生活環境や生活習慣の健康への影響を知り、看護の視点を広げることができる。 	ライフサイクルと特徴 発達課題と役割 保健医療福祉の動向 法律と政策 生活背景 生活環境・生活習慣と健康 加齢
健康を保持・増進する看護	1 (15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントが必要な対象とその家族について理解できる。 2. ライフステージや健康レベルに応じた看護実践のあり方が理解できる。 3. 人生の最終段階にある対象について理解できる。 	慢性疾患・がん看護 アドヒアランス 変化のステージモデル 健康教育と行動変容 健康レベル 人生の最終段階におけるケア アドバンスケアプランニング
機能障害に応じた看護Ⅰ	1 (30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病態生理の視点から、機能障害を理解できる。 2. 機能障害のある対象を理解し、看護につなげる 	病態生理 各身体機能の障害とその看護
機能障害に応じた看護Ⅱ	1 (30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活機能の視点から、機能障害を理解できる。 2. 生活機能に障害をきたしている対象を理解し、その人なりの生活を支援する方法を導き出すことができる。 	ICF 生活機能障害とその看護 評価基準（認知機能、栄養状態、褥瘡） リハビリテーション看護
危機的状況からの回避	1 (30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機的状況や侵襲的な治療が必要な状態にある対象と家族について理解できる。 2. 侵襲的な治療を受ける対象の生命維持・回復に必要な知識を習得する。 3. 侵襲的な治療を受ける対象の状態にあった援助を導き出すことができる。 4. 看護問題の解決に必要な臨床判断のプロセスや思考過程を理解できる。 	健康の破綻 生体侵襲と生体反応 危機理論 ストレス理論 周手術期看護 化学療法・放射線療法 クリティカル看護 科学的思考・臨床判断
回復を促進するかかわり方	1 (30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害からの適応過程にある対象とその家族について理解できる。 2. QOLの維持・向上を目指したセルフケア能力や健康問題に適応する能力を支援する方法を理解できる。 	自己効力理論 ストレングス エンパワーメント ライフレビュー コンフォート理論 ユマニチュード パーソンセンタードケア

<p>成人・老年看護学 実習 I</p>	<p>2 (90)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 侵襲的な治療を受ける対象とその家族の特性を理解できる。 2. 対象の機能障害の特性を理解し、回復に向けたアセスメントができる。 3. 回復へ向けて変化していく対象を理解し、患者の状態に合った的確な看護援助を考えることができる。 4. 臨床判断の思考過程を活用し、看護を実践することができる。 5. 継続すべき看護援助を明らかにし、医療従事者の協働の中での自身の役割を理解できる。 	<p>発達課題 社会的役割 生体侵襲理論 スタンダード・プリコーション 周手術期看護 急性期看護 回復期看護 臨床推論・臨床判断 移行支援</p>
<p>成人・老年看護学 実習 II</p>	<p>2 (90)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な場で療養生活を送る対象および家族の多様性を理解し、尊重した関わりができる。 2. 対象の身体・生活機能障害の特性を理解し、健康レベルに応じた健康上の問題を明確にできる。 3. 複数患者受け持ちやチームナーシングの中で、対象の個別性を意識した実践ができる。 4. 地域包括ケアシステムを視野に入れた継続看護の必要性が理解できる。 5. 実践を振り返り、自己の看護を理論に基づいて振り返ることができる。 	<p>発達課題、ライフサイクル 健康レベル 生活機能障害とその看護 認知症とその看護 人生の最終段階におけるケア QOLの維持・向上 各種評価基準 チームナーシング リーダーシップ・メンバーシップ 継続看護、地域包括ケアシステム</p>